



各 位

会社名 荒川化学工業株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 高木 信之
(コード番号 4968 東証プライム市場)
問合せ先 取締役執行役員 経営企画本部長 富宅 伸幸
T E L (06) 6209-8500 (代表)

第 6 次中期 5 カ年経営実行計画（2026 年度～2030 年度）の骨子策定に関するお知らせ

荒川化学工業株式会社（以下、「当社」）は、当社グループを「ありたい姿」に変革し、持続的な企業価値向上を実現するため、2026 年度を初年度とする「第 6 次中期 5 カ年経営実行計画」（以下「第 6 次中計」）の骨子を策定しましたのでお知らせします。

当社は 2026 年 11 月に創業 150 周年を迎えます。この大きな節目に、新たな中計スローガン

「**V-ACTION for the Future** ～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～」を掲げ、「事業ポートフォリオ改革の加速」と「生産性および資本効率の向上」を中核とし、挑戦・変革を通じた価値創造力の強化に取り組めます。また、キャッシュ創出を変革の軸とし、成長投資・人的投資・財務健全性・株主還元の好循環の確立により、中長期的な企業価値の最大化を目指してまいります。

1. 基本方針

経営理念：個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

ビジョン：つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

行動指針（バリュー）：ARAKAWA WAY 5 つの KIZUNA

2030 年のありたい姿：ロジンをはじめとする天然素材を活かし、「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する。

中計スローガン：**V-ACTION for the Future** ～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～

第 5 次中計で掲げた「V-ACTION」の「5 つの V」を継承し、未来に向けて価値創造に挑戦し続ける強い意志を表しています。社員一人ひとりの意識やマインド（心）と、技術やビジネスモデル（技）を磨き上げ、当社グループの幅広い事業を通じ、より豊かで輝かしい未来社会の実現に貢献していく想いを込めております。

第6次中計では、以下を中核方針として推進いたします。

1) 事業ポートフォリオ改革の加速

- **集中投資**：電子材料およびライフサイエンス（ヘルスケア、アグリ、コスメ等）への重点資源投入
- **グローバル展開**：「かせぐ」事業の再構築と、海外市場における成長機会の追求を両立
- **環境経営の深化**：EBITDA を CO₂ 排出量で除した「炭素利益率（ROC）」を新たな業績指標として導入し、収益性向上と脱炭素を連動

2) 生産性および資本効率の向上

- **規律ある資源配分**：成長性と収益性に加え、ROIC も考慮した事業評価に基づき、低収益・非中核事業を継続的に見直す
- **企業体質の強靱化**：全社横断プロジェクトによるプロセス変革をおこない、生産性とキャッシュ創出力を高め、PBR の向上を目指す

2. マテリアリティ

中長期的な企業価値向上に向け、重要課題（マテリアリティ）を再編しました。第6次中計は、これらのマテリアリティへの対応を起点として構成しています。

【価値創造に直結するマテリアリティ】 1. 事業ポートフォリオ改革の加速 2. 資本効率および生産性の向上 3. グローバル競争力の強化 【実行を支える基盤マテリアリティ】 4. 安全・品質・コンプライアンスの徹底 5. 人財・実行力の強化 6. 環境・資源循環への対応	【KIZUNA 指標（KPI）の例】 投下資本利益率（ROIC） 炭素利益率（ROC） CCC 短縮日数指数 ※1 海外売上成長率 重大事故・重大インシデントゼロ 一人当たりの付加価値額 イキイキ指数（エンゲージメント）※2 サステナビリティ製品売上成長率 CO ₂ 排出量の削減
--	---

※1 CCC…キャッシュ・コンバージョン・サイクル。棚卸資産回転日数＋売掛債権回転日数－仕入債務回転日数

※2 イキイキ指数（エンゲージメント）以外の KPI については全て連結ベースの数値を予定しています。

3. 定量目標（財務・非財務）

当社の資本コスト（WACC）は4%前半で推移していますが、金利上昇や有利子負債削減により、2030年には5%程度になると推定しております。第6次中計期間においては、まず通過点として、ROE 7%、ROIC 5%を達成し、さらにそれ以上を目指しつつ、事業を成長させながら、キャッシュ創出力を高めていくことが重要と認識しており、主な定量目標は以下の通りです。

百万円	2024 年度 実績	2025 年度 業績予想/5 次中計	2028 年度 第 6 次中計	2030 年度 第 6 次中計
連結売上高	80,236	85,000/90,000	93,000	103,000
連結営業利益	1,057	2,800/3,500	5,000	7,000
連結経常利益	854	2,400/3,000	4,200	6,700
EBITDA	6,778	8,300	9,200	10,500
純利益	2,644	1,800/2,100	3,000	4,400
ROE	4.6%	3.0%	5%以上	7%以上
ROIC※1	0.9%	2.3%	3.5%以上	5%以上
自己資本比率	47.8%	47.6%	50%程度	54%程度
有利子負債	39,381	40,500	39,500	37,000
安全・品質 コンプライアンス	重大事故・重大コンプライアンス違反は発生ゼロにする			
イキイキ度※2	イキイキタイプ割合 25%以上			

※1 税率は簡便的にいずれの年度も 30%として試算

※2 第5次中計では従業員満足度（目標 50%以上）をイキイキ度の KPI としたが、当初の目標を達成したため、第6次中計では「変化への挑戦度×仕事への情熱」によりイキイキ度を測定する。

4. 主な施策（事業戦略）

2030 年度の営業利益目標 70 億円（2025 年度業績予想比+150%）の達成に向け、下記の施策等により増益を実現してまいります。

1) 成長・注力事業（のぼす、そだてる、かせぐ）・・・増益額 20 億円以上（2025 年度予想比）

- 電子材料領域（電子部材、データセンター・AI 関連材料、半導体関連材料等）の事業拡大（増益額 12 億円以上）
- ライフサイエンス領域の事業化加速と収益貢献化（増益額 3 億円以上）
- 海外市場における成長機会（板紙用紙力増強剤、水素化石油樹脂、ロジン系樹脂等）の追求（増益額 5 億円以上）

2) 構造改革（かせぐ、やめる、わたす）・・・増益額 20 億円以上（2025 年度予想比）

- 再構築対象事業（水素化石油樹脂、サイズ剤等）の生産プロセス変革等の抜本的な収益性向上
- キャッシュ創出力の強化を軸にしたオペレーションプロセス変革と間接業務の生産性向上

5. キャッシュアロケーション

CASH(億円)		第5次 実績見込	第6次 計画
IN	営業 CF	150	340
	投資 CF 資産売却等	60	20
	財務 CF 資金調達	190	—
	合計	400	360
OUT	定常投資	165	165
	成長投資	150	55
	株主還元	48	78
	有利子負債 返済	—	35
	その他	37	27

表中の数値は概数として記載しています。

営業CFの主な増減要因

・営業利益増加	240億円
・運転資金増加	△80億円
・資本効率改善によるキャッシュ創出	30億円

成長投資の主な内容

5次 将来需要に備えた生産能力の先行増強	
・電子材料関連	55億円
・水素化石油樹脂	47億円
・紙力増強剤(グローバル展開)	22億円
・新規事業開発(微細膜、ライフサイエンス)	14億円

6次 『次の柱』を育てるための重点投資

・生産能力増強投資(グローバル展開)	35億円
・成長・注力分野への戦略投資(M&A含)	20億円

6. 株主還元方針（第6次中計期間）

当社は安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組むことを基本方針としております。この方針に基づき、2012年度以降、累進的な配当を継続しております。第6次中計における資本効率とキャッシュ創出力を高める目標と連動し、**同中計期間中の配当については原則的に累進配当**といたします。また、**配当性向目標は50%に引き上げ、積極的な還元を推進**します。

7. 今後の開示について

第6次中計説明資料は5月14日以降に順次開示する予定です。

日程	イベント	開示内容（予定）
2026年5月14日	決算発表（15時適時開示予定）	セグメント別の定量目標
2026年6月1日	決算説明会（16時開始予定）	詳細説明資料

当社は本中計を通じて、計画実行と成果創出を徹底し、キャッシュ創出力の強化と成長・注力事業への集中投資の両立により、資本コストを意識した持続的な企業価値向上を実現してまいります。

概要については、[第6次中期5カ年経営実行計画概要](#)をご覧ください。

以上

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。